

令和5年度行政事業レビューシート		(文部科学省)					
事業名	美術品DXによる管理適正化・市場活性化推進事業			担当部局庁	文化庁	作成責任者	
事業開始年度	令和4年度	事業終了(予定)年度	令和4年度	担当課室	文化経済・国際課	課長 板倉 寛	
会計区分	一般会計						
根拠法令(具体的な条項も記載)	文化芸術基本法 第15条			関係する計画、通知等	成長戦略フォローアップ(令和3年6月18日閣議決定) 経済財政運営と改革の基本方針2021(令和3年6月18日閣議決定) 文化芸術推進基本計画-文化芸術の「多様な価値」を活かして、未来をつくる-(第1期)(平成30年3月6日閣議決定) 文化経済戦略(平成29年12月27日内閣官房・文化庁)		
政策	12 文化芸術の振興			主要経費	その他の事項経費		
施策	12-1 文化芸術の創造・発展・継承と教育の充実						
政策体系・評価書URL	-						
事業の目的(5行程度以内)	我が国が誇る有力な美術品を「ナショナル・コレクション」として国内外に発信すべく、美術館・博物館における管理の徹底及び民間に所在する美術品の捕捉をDXを通して実現する。まず、美術品・文化財の管理を標準化し、全国主要な美術館と民間(個人コレクター、企業等)が保有する美術品のうち、真に重要なものをICタグ等で分散管理。その情報を一元的に取得するシステムを開発することで、美術品情報の提供、管理の適正化を図る。あわせて、美術品のトレーサビリティの確保による取引の透明性の向上を図り、より活発な取引市場を作り出すことも目指す。						
現状・課題(5行程度以内)	我が国の美術館・博物館では、収蔵品の取り扱い(ドキュメンテーション)が標準化されておらず、明文化されていないことも多い。美術館・博物館のDX化による業務の効率化、コレクションの可視化において標準化は必須だが、一部館の取組にとどまっており、美術館・博物館全体としての取組みが少ない。また、アート市場の流通時の情報が来歴情報としての蓄積が明確化されておらず、アート市場の閉塞性にもつながっており、市場の活性化の阻害要因ともなっている。						
事業概要(5行程度以内)	国内美術館・博物館のドキュメンテーション(コレクションの情報記録方法)を明確化して標準化し、標準化された方法に則り、既存システムと連携して、ブロックチェーンを活用して、美術館・博物館の収蔵品の管理を標準的な方法で一律に実現し、我が国の美術館・博物館が保有する収蔵品の見える化を促す。同時に、市場や民間(コレクターや倉庫、運送会社等)にも同様の仕組みを導入して、美術品・文化財の流通情報の標準化による流通促進を図る。						
事業概要URL	-						
実施方法	委託・請負						
補助率等	-						
予算額・執行額(単位:百万円)(インプット)	予算の状況	当初予算(A)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
		補正予算(B)	-	-	44	-	-
			-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	-
		予備費等(E)	-	-	-	-	-
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	44	-	-
執行額(G)			43				
執行率(%) =(G)/(F)			98%				
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]			98%				
令和5・6年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)				令和5(2023)年度より、課内事業の再編により、本事業はアートエコシステム基盤形成事業の一部となった。そのため、本事業は令和4(2022)年度で終了となった。		
	(目)						
計(A)		-	-				

活動内容① (アクティビティ)	国内美術館・博物館の収蔵品管理の標準化									
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
	国内美術館・博物館の収蔵品取り扱い方法を標準化する。	コレクション取り扱い方法の標準化件数	活動実績	件	-	-	1	-	-	
			当初見込み	件	-	-	1	-	-	
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	国内美術館・博物館の収蔵品管理の標準化を通して、アート市場における来歴管理を促し、もって、アート市場の流通促進を図る。結果、アート市場の活性化につなげる。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 4年度		
	日本国内のアート市場の取引高を世界第4位のフランスに次ぐ規模に引き上げる	日本国内のアート市場規模	成果実績	位	-	-	8	8		
			目標値	位	-	-	-	-		
			達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	The Art Market Report (Art Basel & UBS)									
アウトカム設定について の説明	アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由									
	-									
	アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由									
	令和4年度で本事業が終了しているため									

活動内容② (アクティビティ)		標準化された仕組みを活用したICタグとブロックチェーンの紐づけを実施し、美術品の流通の促進を図る。(令和4年度は実証事業)								
↓										
活動目標及び活動実績② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		美術品におけるICタグとブロックチェーンの紐づけを推進する。	タグ付けされた美術品の公開件数	活動実績	件	-	-	-	-	-
				当初見込み	件	-	-	-	-	-
↓										
成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)		美術品のブロックチェーンへのタグづけにより、国内に所在する美術品の可視化を促し、もって美術品の流通促進を図る。								
成果目標及び成果実績②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 4年度	
		タグ付けされた美術品の貸与件数の増加	国内ミュージアムが保有するコレクションの貸与の増加	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		事業結果								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								
		令和4年度で本事業が終了しているため								
事業に関連する KPIが定められて いる閣議決定等	名称									
	URL									
	該当箇所									

職員旅費 0.1百万円

文化庁
42百万円

委託【随意契約(企画競争)】

A 有限責任監査法人トーマツ
42百万円

美術館・博物館のドキュメンテーションの標準化、全体統轄

再委託

B フェンリル株式会社
16百万円

C 合同会社アートロ
ジー
2百万円

テスト環境開発、実証事業実施

翻訳

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	全体管理等にかかる人件費	20	人件費	テスト環境開発、実証事業実施費	16
一般管理費	一般管理費	2			
消費税相当額	人件費にかかる消費税相当額	2			
計		24	計		16
C.			D.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	翻訳	2			
計		2	計		

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	有限責任監査法人トーマツ	5010405001703	美術館・博物館のドキュメンテーションの標準化、全体統	42	随意契約(企画競争)	2	-	

B.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社FENRIR	7011001101614	テスト環境開発、実証事業実施	16	随意契約(その他)	-		

C.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	合同会社ARTLOGY	9011103010190	翻訳	2	随意契約(その他)	-		
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載							チェック	